

# きざみずい報 廣

【毎月15日発行】

雄 柴田 一 雄  
 役 村 役 場  
 所 泉 崎 村 役 場  
 所 ワ タ ベ 印刷所

者 長 柴 田 一 雄  
 課 長 泉 崎 村 役 場  
 編 集 所 泉 崎 村 役 場  
 務 行 所 泉 崎 村 役 場  
 総 行 所 泉 崎 村 役 場  
 發 行 所 泉 崎 村 役 場  
 刷 所 泉 崎 村 役 場  
 印 刷 所 泉 崎 村 役 場

村民の動き	前月	1,066
本	1,066	1,066
数男女計	2,803	2,806
世帯	2,912	2,915
人口	5,715	5,721

## 第二期 林道工事着工

昭和四十二年十月に着工された関和久木ノ内地内林道峠線の継続事業として一月八日第二期工事延長六二〇メートル、中員三メートル六〇の工事が入札され、矢吹町山陽工業株式会社星敬二氏に老百九拾貳万円で落札され近く着工されることとなります。これ等事業は三月末には完成され総延長一、〇〇五メートルにおよび七四ヘクタールの山林資源は大型自動車にて搬出されることになり、今後山林の高度利用に役立つものと確信する次第であります。

### 〈産業課〉

## 県道の通行止に ついてお願い

現在河川工事を施行中のため泉崎から太田川に通ずる県道が通行止になり二月一ぱい皆さんに御迷惑をお掛けしております。迂廻路は第一小学校から高屋を通り国道の礼堂橋に出る様になつております。道路が狭く屈曲も多いので自転車等で車と交換する時は危険ですので充分注意する様お願いします。また仮橋も工事の関係で通り苦いかと思われませんが、今しばらく御辛抱下さい。

### 〈土木係〉

## 新年を迎えて

村長 小針喜一郎



皆様方新年おめでとうございませう。昨年の災害、早魘を克服して稲作を大豊作に転換させた各位に対し深甚なる敬意を捧げる次第であります。農業は曲り角と云われて居りますが、農家各位の努力によつて漸次好転して居り食糧不足の日本にとつては農業の経営改善により農家の所得の向上と、やり易い農業になつて農家生産物の上昇を計つて頂かなければなりませんし、亦そうした施策が必要であり、そうした各位の努力がもたらさねばならない現状であります。前途には明るい希望が表れて居りますので吾等農村としては各々協力して発展に努力したいと希念するものであります。

農業構造改善事業も四十二年度から第二次事業(第三年目)に入りましたし、穴堰土地改良事業も基盤整備事業は終了、水路事業に入ろうとして居ります。これ等の基盤整備に併行して消毒の合理化等により省力栽培による所得の増嵩、林道、草地改良、桑園、そ菜集荷販売の合理化、畜産の振興等が進められ次代を荷負う青年の農業への意慾をもやしたい。今まで東京方面に就職する人が圧倒的に多かつたが、今では半分以下になりつゝあることは農村地方に住みたいと云う願ひの表われと思われたい。農村のよさを私達は協力して伸ばしたいと存じます。

本村の学校建築も一小及び中学校特別教室も四十二年度で完成致しますので、今後は学校プールや幼児の教育整備に入るよう皆様と共に努力したいと思います。

農村の進展にどうしても欠くことの出来ないのは道路であります。農業生産物の販売の為、亦交通災害をなくす為にも、将亦時代の忙

しさの中で行なう農業のためにも県村道を改良したいと念じて居ります。

これらの事業と農産物の育成発展が一体となつて住みよい吾等が村になるよう、明治、大正、昭和と激変の中にも進展した日本の明治百年祭にふさわしい村づくりに邁進したいと存じます。

年頭にあたり各位の御支援と御協力により今年もよりよい飛躍の年でありませう念願し、皆様と共に新年を祝福いたします。

## ご挨拶

議長 中野目角嗣



昭和四十三年の新春にあたり一言御挨拶を申し上げます。村民の皆様方には良いお年を迎えられましたことと存じ心からお喜び申し上げます。ふりかえつてみますと昨年は我が国始まつて以来の史上最大の豊作と云われ、年とともに経済の成長も非常に高度化して進んで参りましたことは、皆様も既に御承知のとおりであります。経済の成長に伴ない文化の発達も目覚しいものがあります。

今年には明治百年目にあたりすべてにおいて、意義深い年ではなからうかと考えております。日頃村民の皆様方には深い御理解と御協力を戴き心から感謝申し上げます。次第で御座居ます。

今後議会としても村長を中心とし我が村発展のため、微力ではあります。全力を尽くし明るい郷土の建設に邁進致し度いと存じますので、旧年に倍し皆様方の御協力と御指導をお願いいたし、簡単ではあります。年頭の挨拶といたします。

◇ ◇

### 新春を迎えて

教育長 簡内清一

昭和四十三年の新春をお迎えなされ皆様方には愈々ご健勝にわたらせられることを、心よりお祝いをいたします。

昨年は皆様方の努力により天恵とは申せ、本当にすべての農作物の豊穰な収穫を得ましたことは、農家経済上よろこばしい次第でした。

さて兼ねてより、村当局並びに議会のご理解と皆様方のご協力により、我村教育施設の状況は着々と整備されて、第一小学校、中学校の特別教室の建築等も三月迄に

### 消防出初め式

一月六日恒例の消防出初め式が第一小学校、第二小学校校庭で地区毎に行なわれた。



写真は 器材点検をうける東地区団員(上) 関団を受ける西地区団員(下)

は竣工して、管内随一の偉容を誇り得る、立派な校舎が出現いたします。

本年明治百年を、迎えるにあたりかかる、施設の整備されることは、村教育発展のため、まことに慶ばしいところだ。

明治維新の大業をなしたげ、今日驚異的な発展を、もたらしたことは、当時教育施策に重点を置き義務教育により、国民の教育に力をいたし、またそれぞれの学制による教育行政の努力の結果による処といわれております。

我村の教育も先人達のその偉大な業績を讃えつつ、昭和四十三年を第二の明治維新として、教育内容の充実に取りくみ、道義心の高

小針消防長の関団のあと、装器材点検など丹念に行なわれ、有事に対処すると共に無火災を誓い年頭の出初め式を終わつた。

### 教育委員に本柳一男氏

村教育委員小林三郎氏は一月七日任期満了となり、その後任として大字泉崎字館五四、本柳一男氏が議会の同意により一月八日付就任した。

### 戸籍手数料改正の御知らせ

昭和四十二年十二月十五日戸籍法及び手数料令が改正になりましたが、其の施行月日は昭和四十三年一月一日より実施致して居ります。

す。改正後の手数料金は左記の通りでありますので御知らせ致します。

戸籍手数料金は用紙一枚につき五〇円に成りましたので抄本は一通五〇円で、謄本は用紙が一枚増す毎に五〇円加算されます。

尚、戸籍簿の関らんも同様に同一戸籍につき一回五〇円と改正されました。

### 成人式を終えて

昭和四十三年度村主催成人式は「成人の日」の一月十五日、中学

揚と小・中学校児童生徒の学力向上、健康の維持、増進をはかりながら、心身ともに健全な社会に適應性の持った立派な国民として自立し得るよう育成に努力いた所存です。

また社会教育面については、青少年の教育研修等による、若き農業自営者の養成、各種学級による学習等をおして、お互の研修と融和を図り、郷土愛に充ちた豊かな明るい村造りに、な水泳プール建設による体力づくり、村立幼稚園の設置による幼児教育等も計画して、総合的な教育の実施により村教育振展に努力し、今後泉崎村発展の基石として、皆様とともに歩みたいと存じます。

校講堂で九五名の成人者と多数の来賓を迎えて挙行された。式典の後、新しく成人となつた鈴木玲子さん、久保木秀子さん、鈴木正弘君、駒橋五十六君等の感想発表や青年会員の研究発表主張など現代青年の意気を示した。続いて茶話会、祝賀パーティに移り意義深い半日を終わつた。

青年会員の発表者  
兼子行雄 野崎 勝 大森健男  
鈴木康男 菊地吉三 岡部 博  
長久保重行(発表内容四面)

### 福島県農業基本

#### 調査について

この調査は、来る二月一日現在で本県の農業に関する実態を調査し、農業施策の基礎資料を得ることを目的として行なわれます。例年の通り経営耕地面積10a以上、又は調査期日前一年間における農業生産物の総販売額三万円以上の規模の農業を行なう世帯を対象とします。この調査が円滑に行なわれますように、農家の皆様の御協力をお願いいたします。

### 慶 弔 欄

#### ●出生おめでとごさいます

(名前) (父の名前) (住所)  
水野谷美智子 克一 堂ノ下46  
●謹んでお悔み申上げます

小針 直治 太田川字居平20  
鈴木 フヨ 泉崎字下宿入

石塚 一男 泉崎字外ノ入14  
穂積 コヨ 泉崎字外ノ入20

有賀 徳重 泉崎字外ノ入20  
山内 ノブ 関和久字下原12

大木 ツル 関和久字瀬知房20

### 学級の訪問指導

県の実験婦人学級として二年目を迎えた関平婦人学級(田崎かつ委員長)では一月八日県教育庁社会教育主事関ウタ先生、西白河教育事務所斎藤七郎先生の訪問指導をうけ、今後の学級の運営や学習内容などを話し合った。午後からは中島改良普及所の酒井技師の労働と健康管理の講義の模様を見学したあと、昨年全国から選ばれた婦人教育関係者のヨーロッパの教育事情視察団に加わった関先生の西欧各国の婦人教育の実情についての講演があつた。この日はいずみ4日クラブの定例学習日であつたので合同のかたちで行なわれ効果的な学習であつた。

【写真・関先生の講演をきく学級生】

### 実習生の募集

白河開拓指導農場では昭和四十四年度の实習生を次の要項で募集しています。

- 資格 年令十五才以上の男子で開拓農協の長、又は市町村長の推せんをうけたもので一般農業酪農業の後継者として精進しようとする心身ともに健全の者。
- 修業年限 昭和四十三年四月から四十四年三月迄の一年間。
- 科目 一般教養 ・ 農業経営  
酪農技術 ・ 酪農技術  
募集人員 二十名  
●手続き  
●親権者の連署の入場願書



- 履歴書(市販のもので可)
- 戸籍抄本
- 身体検査書
- 写真(半身脱帽、正面向き名刺判)
- 最終校の卒業証明書又は見込み証明書
- 入場志願に関する調査書
- 推せん書

●選考 期日、場所は申込者へ通知する。

●選考の方法 イ、筆記試験

中学卒業程度の国語、数学理科、社会について実施  
ロ、口述試験  
農場の実務及び共同生活にたえ得る心身を保持し、入場後支障をいたすおそれがないかどうかについて考査する。

●入場許可 選考により入場適当と認められた場合は、農場長より入場許可の旨

を入場に必要書類の提出方とともに通知する。

### ●農場実習生とは

近代的な農業経営を営もうとする開拓農業者及び酪農業経営者の子弟で農業後継者となる者に対し農場の実務と自主的な共同生活を通じて酪農技術、一般農業経営及び一般教養を習得し、帰郷後直ちに家業に従事し農村の中堅青年たらしめる実技と、社会人としての素養を体得せしめる県の制度である。

### ◎どのように研修するか

全員寄宿舎に収容し、毎日八時間の農場の事業である乳用牛育成を主とする牧草の管理及び育成管理、乳用成牛及び養鶏の管理並びに水稲栽培及び農機具の実習等の実務に従事する。

毎日一〜二時間実務を通じ修得した技術に対し職員指導によりその学理を研修する。特に専門的な学科に対しては講義により研修の実績をあげる。

### ◎どのように共同生活をするか

全員寄宿制で自主的共同生活を営むため生活部、研修部、作業部厚生部として相互協力し一定の規律の下に運営する。これら生活研修に要する経費は別途支給される手当をもつて充足し得るよう指導する。

### ◎経費

研修、学費、実習に要する経費は必要としませんが、共同生活に要する食費及び学習用品などは農場の実務従事手当等により充足するよう指導するので父兄との連絡会費(四、〇〇〇円)旅行の際の小遣(三、〇〇〇円)位)及び入場の際の準備経費(五、〇〇〇円)帰郷旅費などが年間経費と見込まれる。なお詳細については役場産業課又は農場にお問い合せ下さい。

### ●ガス中毒

いちばん多く見られるものが一酸化炭素中毒です。一酸化炭素(CO)は無色、無臭で空気よりわずかに軽く、火の充分燃えきらないときに発生します。換気のわるい部屋で煉炭や炭火をおこしたり、ガス管からガスが洩れたりしているときに危険です。

一酸化炭素は血液の中の赤血球との結合力がつよく酸素の約二五〇倍もあるため、赤血球と酸素が欠乏し、死亡します。ことに脳の

組織は抵抗力が弱く、意識不明となり、呼吸停止をきたします。

《症状》 あくび、頭痛、めまいはき気、脱力感などがあり、これらは、はじめから気がつくことが多いのですが、歩くことができなくなつてから気づくこともあり、そのうちに意識がなくなつて死亡します。

### ●(予防)

- ①、中毒した人を助けに行く人がその現場でみつからぬ中毒をおこしてしまうことのないように
- ②、換気の悪いところで炭などを

③、睡眠中にガス暖房をしないこと。

④、ガスを使用しないときには必ず元栓をしめること。

⑤、ガス管に注意!! つまづいてはずれたり、洩れていたりしないように。

⑥、ガス器具を素人が修繕しないように。

### ●(救急処置)

- ①、すぐ新鮮な空気を呼吸させること。
- ②、呼吸停止のときは人工呼吸。
- ③、人工呼吸を続けながら病院へ

成人式の発表会から

今後の農業

経営に思う

関和久 青年会 兼子 行雄

本日は皆さん成人式を迎えられ  
ましたこと、心から御喜び申し  
上げます。本日に御目出度う御座  
居ます。

私達は終戦子として戦後に生ま  
れ二十年間、親の愛情で育てられ  
現在、村に残り農業を行つて居る  
人達は立派な農業経営者となる為  
に、又都会に出て会社につとめて  
いる人生それぞれの仕事に真剣に  
なり自分の職業に生きがいを感じ  
て一生懸命働き将来の生活に夢を  
もち、毎日を健康で楽しく過して  
行ける事は大変幸わいな事だと思  
います。

そこで私達農業を受けついで居  
る者が現在の農業経営と、そして  
これらの農業経営を色々と考えて  
見た場合、これから私達の手で改  
善して行かなければならない点が  
あまりにも多すぎるような気がし  
ます。

そこで私の現在の農業経営状況  
のあらましを述べ、これから私が  
やつて見たいと考えて居る農業経  
営について一言話して見たいと思  
います。

私の家では現在水田二三〇アール、畑が六〇アールの耕地があり  
その外に家畜は豚親子で二十五頭  
乳牛雄の肥育は九頭、それに鶏が  
少しあり、その他に精米業を行な  
つて居ります。それで働き手は父  
母と私の三人が居りますが、実際  
に農業労働力となると二人と言  
事に成ります。それで忙しい時の  
労働不足がなやみの種です。それ  
をカバーする為には手間をつかうか  
又は機械力にたよる外はありません。  
現在人手をたのむと言ふ事は  
非常にむづかしい事です。農業の  
手間に出るよりも外の仕事に出た  
方が仕事がらくでその上賃金が高  
いと言ふ事ですから、農業の手間  
に出る人が年々へるばかりです。

そこで結局労働、不足をおぎな  
う為にはどうしても機械を買入れ  
てそれを使うより外に道はありません。  
さてこの機械を買うと言ふ  
事ですが、現在の農業所得の状態  
から見た場合、そこに又問題が有  
るのではないかと思います。実際

私の家では農業機械はほかの農家  
よりも金がある物ばかり買わな  
いようにして居りますが、それで  
も年間収入の二〇〜三〇%近かく  
も機械化として支出しなければな  
らない状態になつて居ります。年  
間使用時間を見ればいくらも使わ  
ない物を物置に入れて置く状態  
です。こんな機械に何拾万円も金  
をかけていては、われわれがいく  
ら働らいても農家の経営はなか  
かよくなるまいのはいつわさる姿  
ではないでしょうか。そこで私は  
これからの農業経営についての私  
の考えを少しのべて見たいと思  
います。

それは現在のような個人経営の  
農業でなく、五軒か一〇軒位の農  
家が集まり現在の耕地を出し合  
い株式にして協同経営による企業  
的農業経営にもつて行くことです。  
もちろん農業機械は大型化にし、  
余分な労働力をそ業や畜産業にふ  
りむけて行つたならば支出は少な  
くなるともに、労働不足も解決  
し、現金収入も今よりは良くなり  
毎月定休日を決めて楽しく明るい  
生活が出来るのではないと思  
います。ただ、それをやるにはやは  
り我々若い者が力を合わせて一生  
懸命やらないと、現在の私達のお  
やじぐらゐの年代です先祖様の残  
した財産を守ろうとする気持ち  
が非常に強いのでなかなかそう  
わけには行かないのではないかと  
思うのです。だから我々若い者が  
現代的な考え方によつて、解決策  
をみつつけ、これを実行にうつし成  
功させることが私達の仕事ではな  
いかと思います。

そうならば現在のように農業を  
している我々に嫁不足などと言  
うこともかんたんに解決してくれ  
ると思ひます。

どうか本日ここに成人式にお  
いの皆様も、これから立派な社会  
人として若さと力に物をいわせて  
明るく住みよい社会を造る為に一  
生懸命がんばろうではありませ  
んか。これで私の発表を終らせて  
いただきます。

青年と学習

瀬知房 青年会 岡部 博

成人御目出度う御座います。  
青年と学習について自分の思  
つた事を一言話させて頂きます  
僕も昨年この会場で村長さん初

め皆さんに祝つて頂きましてほん  
とうにこれで成人だ、大人になつ  
たんだ。これを機会に自分をいか  
に成長させようかと色々考えさせ  
られました。

まず働かせればそれで良い  
とはいえません。働きながらど  
んな考えを生み出し、働かながら学  
習をつみ重ね、そして働く者同  
士がどのように世間の荒波を乗りこ  
えて行くか。まず自分の身近かな  
問題からしつかり見つけてどんな  
小さな不満やなやみであつてもそ  
れを大切にしまつておいてはど  
うにもならないと思ひます。どんな  
問題であつてもおたがいに話し合  
い、しつかりした土台を作つて自  
分達をより良くみがき新しい技術  
や方法を考え、毎日毎日の生活の  
中に現実として生かされる物でな  
ければと思うのです。つまりそれ  
は生活をささえているものもつとも大  
事な生産の力になる物でなければ  
ならないと言ふ事なのです。必ず  
そこから一人で考え込むよりすば  
らしい知識やおたがいの励みがわ  
いて来るものです。こうした活動  
が実践力とその波及効果を高める  
原動力になる事です。

それから自分達農業経営、又公  
務員、学生いづれも一つの目的を  
はたすために失敗はつき物と考  
えなければなりません。しかし、こ  
とわざにもあるように失敗は教訓  
です。失敗のないようにする事は  
だれでものねがいでありますが、不幸  
にして失敗した場合、なぜやりに  
しないで十分その原因をつきとめ二  
度と同じ原因での失敗をくり返さ  
ないという事が必要でです。そのた  
めに改良普及員や父兄の助言指導  
は積極的に受け、又あらゆる機会  
の研修的行事に参加して、たゆま  
ない研究が必要だと思ひます。

とにかく足もとをしつかり見  
つめながら、あせらずに一步一步踏  
みしめて平和のためにわれわれ青  
年会と力を合せ、うでを組んで社  
会の厚い壁にぶつかつて努力前  
進しようじやありませんか。

